

第五師團司令部略歴

(昭和五十七年一七一年隊)

年月日	概要
昭 一五 四 年	<p>連令陸甲第五十七連隊により編成改正三三下命令同年文に発す。爾來所 受島未作戦に参加、引越され北地区に戦進を命ぜられ、昭和十七年未 より逐次にニューギニア、ソロモモン諸島に戦進、後終戦に至るま で同地の防衛に任ず</p> <p>終戦後は自主的武装解除を實施すると共に現地自活態勢確立に邁進す 同年未集結を命ぜられ主力は「セラム」島、「ホアマル」半島へ、一 部は「ケイ」諸島、「ケイ」スラレ島に集結、現地自活に邁進中逐次同島 出發復員帰還するに至る</p>

0351

第五師團歩兵第十一連隊略歴

第五師團歩兵第十二連隊副官 山本 茂

年月日	概	要
昭三二 二七 三七	日支事変勃発に伴ふ公刺 同地完結	
至自 二二 三二	内長城戦、大原攻畧戦、青島攻畧戦、徐州会戦参加	
至自 一三 三二	広東攻略戦参加	
至自 一四 九一	山東省警備、並に治安肅正工作従事	
至自 二四 二一	「ノモンハン」作戦参加の爲、滿州国境々度に進退するも停戦の爲、戦斗に参加せず	
至自 一四 九三	南寧攻略戦、賓陽会戦に参加、並に南寧附近警備勤務に従事	
至自 一五 二一	佛印進駐作戦参加	

一五、四、十六
五、三、十五

浙東復讐

年月日	概要
昭 一五 一六 一一	上海附近警備勤務従事並に次項作戦準備
自 一六 一一	<p>浙東復讐 馮素作戦参加並に馮素地区警備勤務に従事</p>
至 一八 七一	<p>豫北へ西部ニユギニヤ、及ヒコケイ山(豫西)地区警備勤務従事</p>
自 二八 七一	<p>昭和二十年一月第三大隊臨時混成歩兵第一大隊は、昭南防線の及び第七方面軍隷下編入を命ぜられ運隊主力は左の如く一部編成改正す</p>
至 二八 七一	<p>運隊本部</p>
自 二八 七一	<p>運隊中隊</p>
至 二八 七一	<p>運隊砲中隊</p>
自 二八 七一	<p>第一、二大隊</p>
至 二八 七一	<p>一挺中隊四六一挺小隊三、四丁小隊一)</p>
自 二八 七一	<p>重火隊中隊一(7A、71A小隊各一)</p>
至 二八 七一	<p>運隊は昭南防線の及び第七方面軍隷下編入を命ぜられ、昭、二八、八、一、主力へ一中隊は依然西部ニユギニヤ警備の</p>

0353

	年 月 日
<p>二 大佐 山縣 梁花生</p> <p>三 同 大橋 熊雄</p> <p>四 同 渡辺 綱彦</p> <p>五 同 高橋 辨</p>	<p>概</p> <p>要</p>

0355

歩兵第二十一連隊略歴

年月日	概	要
昭 一五 二 三		<p>軍陸甲第五十七号により編成改正を下令せられ従前の馱馬編成より車輜編成となり、同編成をもつて、馬來作戦等に参加、引続き、同編成をもつて漢北地区に前進を命ぜらる</p> <p>漢北コアルレ諸島の防衛に任しありたるも全般の状況より、昭二十、一、混成大隊の抽出を下令せらる</p> <p>臼部隊抽出に伴ひ、昭二十、四、三、コ成編制を下令、連隊本部に通信中隊（歩兵砲中隊）（連隊砲系隊、大隊砲一小隊）、大隊本部一歩兵中隊四（歩兵三小隊、機関銃一小隊）重火器中隊一（大隊砲一小隊）速射砲一小隊）のニケ大隊編成となり依然コアルレ諸島の防衛に任じわりたるも全般の關係より、昭二十、六、コセラムレ島に上陸同島コホニテトレ（熊野）防衛隊となり任務を履行中終戦となる</p>
自 三 八 五		

0356

年月日	概要
昭 三 二	終戦後は自主的武装解除を実施するの外、現地に自活の確立に邁進中 なりしを、昭、二十、一二、未遂にシテラム島陸海軍部隊は同島にホ テマル半島に集結を命ぜら水爾後同半島に於て死力を盡し、自活体 勢を確立略完了、 同地より乗船復員帰還に至る

歩兵第四十二連隊略歴

年月日	概	要
昭三二七		旅急動員下令、宇呂港出帆北支に向ふ、天津上陸北支那長城線作戦、大原攻略戦に参加、爾後山東省方面に転進、青島附近の警備討伐
一三十一		大原省白耶士灣上陸作戦に参加後山東省に復帰
一四八未		コノモ六ノ事変に際し、渠中を命せられ、大連港を経て鉄路北上中、停戦協定成立に依り中止、反転大連港、宇呂港を経て南支に向ふ
三二五		北海上陸並びに、南寧攻略戦に参加引続き南寧―九塘の持久守備に任ず
一五一二八		賓陽及び武鳴平地に於ける作戦に参加
二二二		南寧附近の警備並に討伐
六一八		龍寧道の進軍作戦及び龍州攻略戦参加
七三二		龍州附近の警備及び掃蕩並に広西省に於ける次期作戦準備
九六		仏印作戦参加（但し第一大隊は龍州警備）

昭	年	月	日	概	要
一五	九	五	九	龍州及びフランスンノレ附近整備	
二二	三	二	二	コハイホノレ港より逐次出帆上海に向ふ取進	
二二	三	三	一	上海に於て軍令陸甲第五十七号に依る編成改正	
二二	三	一	一	上海附近集結訓練並に次期作戦準備	
二二	四	一	二	浙東上陸作戦参加、主力は温州上陸約二十日の後上海に撤収第三大隊は石浦附近上陸引続き石浦及び毛洋地区の掃蕩並に警備	
二二	五	七	七	主力は第三大隊を欠くは第十三軍指揮下に諸師附近戦斗に参加	
二二	七	一	一	主力は蘇北地区の清郷工作	
二二	十	三	三	第三大隊運隊に復帰、上海集結訓練並に次期作戦の準備	
二二	二	八	八	馬来半島北部泰固コバタテレに上陸、爾後昭南攻略に至る間馬来作戦参加	
二二	二	一	一	馬来半島及昭南島の警備並に清正工作	
二二	二	一	一	オニ大隊は昭南老成発「ミエギヤ」コマゲン」地区に至リ「ミエギヤ」戦参加	
二二	二	一	一	戦死 兵十一、戦傷死 兵四	
二二	二	一	一	戦病死 将校 一、下士官 一、兵 七、不慮死 兵 二	
二二	二	一	一	主力蘇北に向ふ取進、昭南コスラバヤレコアンボノレ寄港、第一大隊は「ケイ」諸島コトアルレ爾余の主力は「タニンバル」諸島コセラル	

至日		至日		至日		至日		年月日	概要
一九三二	一九三二	一九三二	一九三二	一九三二	一九三二	一九三二	一九三二	二月二二	

年月日	概	要
昭一九三三	戦死 将校一、兵十五、三月二十七日ジヅエワル島北方三哩神屋丸(銃爆裏)	
八四	戦死 兵九、東経一七度四十分光州丸(銃爆裏) 其の他戦死兵十一、通款一、戦病死兵十四	
三一	混成歩兵第三大隊抽出編成下令、三月初より逐次昭南防紅司令部に戦属のため「タニンバル」諸島出発「テンボン」及び「ジャワ」に向ふ「威編制」下令	
八三	戦進のため逐次「タニンバル」諸島出発、並びに同準備途中に於て終戦	
八二	連隊長指揮の一部「セイ」諸島「トアール」到着、爾後依「セイ」島盤留 混成歩兵第三大隊残部「セラム」島盤留、第十二中隊(約一五〇)	
一一五	山砲中隊(約一三〇)を一時連隊に転属せらる、 歩兵第十一連隊残部(約三五〇)及捜索隊五連隊才三中队(約一五〇)	
自三〇 一一四七	を連隊に転属せらる(合して特設才四大隊とす) 戦死兵七(戦病死将校一兵二十、不慮死下士官一兵一)	

年月日	概	要
自 二千二百一十四 至 二千二百三十三	不慮死 下士官一、兵一	歩兵第二十一連隊特設第三大隊(元四十八師、四十七連隊)(約五五〇)ケニバルに諸島ヲヤムテナレ島駐留シテ連隊に戦属セラルル(特設第三大隊トす)
自 二千二百一十三 至 二千二百三十二	動集結、終戦処理業務並に現地自活	第十二中隊山砲中隊を除去連隊全員ヲケイレ諸島ヲケイツラレ島に移
自 二千二百一十二 至 二千二百三十一	工兵第五連隊第二中隊(約二〇〇)第六移動製材班(約三〇〇)を連隊に戦属せられ、且つ、第十二中隊(一五〇)山砲中隊(約一二〇)を工兵第五連隊に属す(戦属隊は特設工兵中隊特設製材班トす)	
自 二千二百一十一 至 二千二百三十	戦病死 下士官六、兵五	復員のためケイレ諸島ヲトテールル出帆
自 二千二百一十 至 二千二百二十九	復員完結(和歌山泉田辺)	
自 二千二百一 至 二千二百十	歴代部隊長名	
	一、陸軍大佐 大場 四平	

	年 月 日
<p>五田 三 同 同</p> <p>吉川 西原 深藤 章 修三 忠雄</p>	<p>陸軍大佐 坂田 元一</p> <p>概</p> <p>要</p>

0363

搜索第五連隊

年月日	概	要
昭一五三三	上海附近次期作戦準備参加	戦死傷者
昭一五三七	呂号獲習参加のため江蘇省吳淞港出港	
昭一五三三	魯津市東方攻跡海岸上陸	
昭一五三三	呂津港出港	
昭一五三三	浙江省鎮海縣鎮海北方海岸上陸	戦死者 將校以下四名
昭一五三三	浙東上陸作戦	
昭一五三三	浙江省寧波出港	
昭一五三三	吳淞港上陸	
昭一五三三	第十三連十五号第二期作戦	
昭一五三三	興善湖地区討伐戦	
昭一五三三	江陰地区清掃工作	戦病死三名

0364

年月日	概要	摘要
昭一八 一三	昭南港出発、 「シヤワ」島「タンジヨンプリホク」港上陸	「シヤワ」島「タンジヨンプリホク」部面 下士官以下 九名 「ルバン」等 五名 同上
至自 一三 三三	濠洲北方地区に於ける作戦準備並に「付」	
至自 三三 三三	「スラベヤ」港出発	
至自 三三 三三	西部ニユギニヤ島「カイマキ」上陸	
至自 三三 三三	濠北地区防衛作戦	
至自 三三 三三	濠北地区防衛第一号作戦	
至自 三三 三三	歴代部隊長名（昭一五、一六、編成改正以来）	
至自 三三 三三	陸軍中佐 高橋 文雄（編成改正当時）	
至自 三三 三三	同 岡根淳一郎（昭一六、三、一）	
至自 三三 三三	陸軍大佐 佐伯 静夫（昭一六、十、一五）	
至自 三三 三三	同 藤村 信吉（昭一八、八、二）	

野砲兵第五連隊略歴

年月日	概要
昭三 七 三二	日支事変勃発に伴ひ動員下令 動員完結
至自 三 十八	内長城戦、大原攻略戦、青島攻略戦、徐州会戦参加
至自 三 三二	平東攻略戦参加
至自 四 九	山東省整備勤務従事
至自 四 二十	1ノモンハン作戦参加のため、関東州大通に転進せるも停戦となる
至自 五 九	南寧攻略戦、賓陽会戦参加並に九南寧附近整備勤務従事
至自 五 二十	仏印進駐作戦参加

至昭	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	年月日	視要
一五	一七	一八	二一	二二	二二	二四	二五	二六	二二	<p>上海附近警備勤務従事（軍令陸甲第〇号に依り昭一五、一二、三十滿成改正）</p> <p>浙東上陸作戦参加並に同地区警備勤務従事</p> <p>上海附近警備勤務従事</p> <p>馬来攻略戦参加</p> <p>馬来半島警備勤務従事</p> <p>トジャワレト向小軌進</p> <p>濠北地区に於ける防衞作戦参加（西部トニユギニアレ島トケワタンレト同島トカイマナレトケイレ群島トケイツラレ島トトアルレ等）</p> <p>復員準備並に復員のための輸送業務従事</p> <p>田辺港上陸、復員完結</p>

工兵第五連隊略歴

工兵第五連隊

松籬千城

年月日	概	要
昭三 二七 二七	動員下令	
八一	動員完結	
二	宇岳港出発	
四	釜山港上陸	
七	朝鮮国境(安東)通過	
二二	山海關通過	
二三	昌平界沙河鎮着	
自八 一四	察哈爾省境山地帯の戦斗に参加	
自九 二六	内長城線附近の戦斗に参加	
自二 八三	大原攻路戦に参加	

至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至昭	年月日	概要	要
	天						三	三		黄河架橋作業に従事	
	十五	一九	八七	七五	五四	四一	二六	二六		東部及び南部山東省の掃蕩戦に参加	
	十八	五四	二七	二六	一九	二九	二九	二八		徐州会戦に参加	
	十									徐州附近の警備	
	十									第二軍淮河渡河作業に従事	
	十									云東攻路戦に参加	
	十									浙東地区の警備並に交通従業	
	十									寧波出発	
	十									上海港上陸	
	十									上海附近に於て次期作戦準備	
	十									上海出発	

年月日	概要
昭 一六 二二 八	泰國ヲシングラレ上陸
至自 一七 三三 一五九	馬来及びヲシングボルレ攻路作業参加
至自 一八 二二 二六	馬来半島に於ける警備
至自 一九 二二 二二	昭南島ヲセレターレ軍港出発
至自 二〇 二二 二二	ヲニユーアリデンレ島ヲラバウルレ上陸
至自 二一 二二 二五	ヲラバウルレ出発
至自 二二 二二 二七	ヲソロモンレ諸島ヲニユーデヨレヤレ島上陸
至自 二三 二二 一九	同島出発、同日ヲコロバンカラレ島上陸
至自 二四 二二 二二	ヲコロバンカラレ島總行場設置作業に従事
至自 二五 二二 二二	ヲコロバンカラレ島出発
至自 二六 二二 二二	ヲソロモンレ諸島ヲボレカインウイルレ島ヲカインレ上陸
至自 二七 二二 二二	ヲカインレ出発
至自 二八 二二 二二	ヲラバウルレ上陸

年月日	概要
昭和 三十八 年八月 二十五 日	終戦爾来終戦當現並に現地自活
一三 未	「ホアマール」半島東海岸（師団司令部の位置地名失念）に集合待機、 復員準備
六二	同地出発（日時推定）
六一	名古屋上陸
六一	除隊（召集解除）帰郷
歴内部隊長名	
一、陸軍大佐	和田 孝次
二、同	田村 安治
三、同	後藤 又敏
(之敏)	

第五師団通信隊略歴

年月日	概要	昭 一五 二二 三
一 二 二	<p>師団司令部と行動を共にし、終戦時「ケイ」諸島「ケイ」以ラ「島」トアル「ク」在リ</p> <p>中支上海出張</p> <p>馬來作戦参加、引続き馬來警備勤務</p> <p>馬來出張</p>	一 七 二
一 八 三	<p>瓜哇を経テ「ニ」ユ「ド」ギ「ニ」ヤ「レ」島「ト」バ「ボ」レ「着」</p> <p>「ニ」ユ「ド」ギ「ニ」ヤ「レ」島「ト」カイ「マ」ナ「レ」ク「取」進</p> <p>「ケ」イ「レ」諸島「ト」ケ「イ」以「ラ」島「ト」アル「ク」取「進」、引「続」き「諸」島「ク」あり「て」</p> <p>防「衛」勤務「続」行「中」終「戦」ト「な」る。</p> <p>残「留」部隊「の」状「況」ク「つ」いて「は」部「隊」全「員」同「時」ク「取」遣「せ」し「た」め「該」当「事」項「な」し</p>	一 九 五

0375

第五師団 輜重兵 第五連隊 略歴

第五師団輜重兵第五連隊長 上木 隆 元

年月日	概	要
昭三 七 二七	勅諭下令	位置
八 二	支那軍受参加の爲、宇岳港出發 北支に出動、爾後、支那各地滿州、仏印、に戦戦、引 続き大東亞戰爭勃発と共に馬柔、新嘉坡攻略戦に参加 、爾後、「ジヤワ」濠北地区に戦進、昭、二十、八、 一五、終戦となる	終戦時、セラ ム島、ピル 終戦後、セラ ム島、ホヤモ アル半島
七 二七	輜馬六ヶ中隊病馬廠一	編成整備
三 八 一	輜馬五ヶ中隊、自動車一ヶ中隊（修理分隊含む） （品六十六台、品七台、倒車一台、工作車二台）	並介に指 揮、親屬
九 一四	右中隊より兵を抽出、水上輜重隊編成（ボンボン船 一〇五ヶ小隊）	関係及び 其の變遷
二 十	水上輜重隊解散、兵原所屬に復帰	の概要

年月日	昭 一五 一三	概 要
	<p>艦馬中隊を解散全部留中隊となる（三ヶ中隊之修理分隊一）</p> <p>爾後終戦、同編成</p> <p>親屬は第五師団長（細部は不明）</p> <p>作戦任務を解散</p> <p>「セラム」島「ホアモア」島に転進、「アサウデ」附近に於て終戦処理業務並に現地自活</p> <p>復員のため「アサウデ」港出発</p> <p>和歌山県田辺港上陸</p> <p>復員完結</p> <p>歴代部隊長名</p> <p>一、陸軍大佐 原口 貞一</p> <p>二、同 徳澤 軍蔵</p> <p>三、同 上木 隆之</p>	<p>←</p> <p>←</p> <p>終戦より帰還までの行動の概要</p> <p>編成地年月日</p> <p>広島</p> <p>輸重兵第五連隊</p> <p>昭、一、二、七</p> <p>二四</p>

0377

第五師団兵器勤務隊部隊略歴

第五師団兵器勤務隊（陸五一八三部隊）

年月日	概要
昭 一九 十 三	「カイマナ」附近の警備
二 十 五	「ケイ」島「トアル」に転進、同島附近の警備（月日推定）
八 二 五	作戦任務を解除せる（月日推定）
八 二 六	「ケイ」島「トアル」に在りて終戦処理業務並に現地自活
二 二 六	復員のため「ケイ」島出発（推定）
二 二 六	復員完結
二 二 六	部隊長名
一	陸軍大尉 守田 晟

第五師団在生隊略歴

副官

立 彦 正 己

(總才五八四部隊)

<p>昭 三 八 三 七 三 七</p>	<p>年月日</p>	<p>概 要</p>	<p>檔 要</p>
<p>三 六</p>	<p>勅買下令 支那華受参加のため宇呂港出発 北支に出動、支那各地滿洲仏印に転戦、引続き大東亜 戦争勃発と共に焉耆新焉波攻略戦に参加、爾後、爪哇 隊北地区に転戦、昭、二十、八、六、一ヶ月イ諸島に於 て終戦、 復員、田辺港に於て部隊解散 編成整備並に指揮線属関係及び其の更遷の概要 一、第五師団長の隷下 二、部隊の編成 本部へ在生部、軍医、二五、藥劑将校、三志舎志 担架中隊三、車輛小队一、</p>	<p>。位置 。終戦時 。源北ヶイ諸島 。編成地及び年 。月日 。玄島 。昭三、七、三、七 。突出身地 。玄島粟 。山口粟 。島根粟</p>	

終戦時	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至昭	年月日	
	千八 八三 一五三	七六 二二 一五五	五 九 二八六	一四 二一 五八	一九 一 一四	三四 二 九	三三 四八 一九六		
<p>三、昭和一六年上海に於て編成改正前記編成に改め 従来の馬編成から車輛編成に改む 参加せる主要なる作戦</p> <p>北支懐柔大原保足山東省附近の戦斗に従軍 徐州会戦</p> <p>云東攻路戦参加</p> <p>南寧攻路戦参加</p> <p>仏印作戦参加</p> <p>馬來作戦、新嘉坡攻路戦参加</p> <p>豫北防犯作戦参加</p> <p>終戦より帰還迄の行動の概要</p> <p>豫北フケイ諸島に高ヶイ島武装解除</p>									
								概要	摘要
								其の要	要

0380

年、月、日	昭 三 四
概 要	<p> 濠北「ケイ諸島」ロツロ口島集結 濠北「ケイ諸島」ロツロ口島ト「マトル港」出港 和歌山「果田」辺港着 復員完結 解散 部隊長名 一、終戦時 陸軍大佐 岩山 直養 二、復員時 陸軍少佐 手村 芳松 </p>
摘 要	

0381

第五師団第二野戦病院略歴

(鯉ヲ五一八六部隊)

年月日	概要
昭 一五二一 三	軍令陸甲ヲ五十七号に依り編制改正を下令せうれ、従前の駄馬編制より車輛編制となり以後濠北地区に轉進を命せられ、防犯任務に従事中終戦となる
一八 三	濠北地区西部にニューギニアにバホレに転進
一五 七	カイマナレに転進
一五 二	タニンドルに諸島にリソカツドレに転進
一八 八	ヤムデナレ島にカビアラツトレに転進
一八 一四	ケイ諸島に依りケイ島にコロインダマレに天々主力を転進、病院を開設し、患者を収療の傍ら現地自活に努力す
一三	ケイ諸島に依りケイ島に自活に邁進、ケイツラ島に集結を命ぜられ、同島に移転後も依然入院患者の収養に併せて現地自活を實施し、敵還時に至る

第五師団第四野戦病院略歴

第五師団第四野戦病院部隊長 藏重 憲藏

年月日	概要	要
昭 二五 二二 三	軍令陸甲第五十七号に依り編成改正を下令せられ、従前の駄馬編成より車輛編成となり大東亜戦に参加終戦時「ケイ」諸島「ケイツラ島」ルルに在り	
自 八 三 九	主なる行動の概要 馬乗作戦、及び「シンガポール」作戦、次で濠北防衛作戦に参加	
自 八 三 九	「ケイ」諸島「ケイツラ島」に於て病院を開設し終戦後も同地に於て専ら	
自 二 六 五	本任務を遂行すると共に現地自活の確立に邁進中略々自活態勢の確立を得たり	
自 二 六 五	病院船及び其々乗船復員帰還するに至る	
	部隊長名	
	陸軍衛生大尉 藏重 憲藏	

0383

臨時混成第一大隊部隊略歴 (昭南防衛司令部)

臨時混成第一大隊長 伊丹忠雄

年月日	概	要
昭 三 一 二 五	<p>歩兵第十一連隊独立混成歩兵第一大隊編成完結</p> <p>一、昭南方面へ戦進の目的を以て歩兵第十一連隊第三大隊を基幹とし之に同連隊内の他大隊及び第五師団内各部隊（配属部隊を含む）より人員を充足せられ歩兵第十一連隊独立混成歩兵第一大隊（臨時名稱）の編成を命ぜられ昭和二十年一月二五日編成を完結す</p> <p>二、編成完結時に於ける部隊人員表並に將校取員表別紙第一第二の如し</p> <p>三、充足人員中准士官以下は、歩兵第十一連隊に転属せしむ將校は勤務ありき</p>	<p>自 三 一 六</p> <p>「シヤワ」島に向ふ戦進準備並に戦進編成完結と共に「シヤワ」島に向ふ戦進準備を行ひ、一月末より逐次救機団となり「ゲイル」諸島出發</p> <p>昭和二十年六月主力は脱北「ヌラバヤ」に集結を完了す</p>

0384

年月日	概	要
昭 二十 七 六	昭南島に向ふ駆進準備並に駆進 ヲシマワレ島ヲマランレに於て教育訓練に精進中昭南島に駆進ヲ命ゼ ラ水昭南防徑の指揮下に入る、	
六 二 三	昭南防徑部に駆進	
六 二 九	大隊主力は概ね昭南島に集結す	
七 七 旬	六月二十九日附昭南防徑司令部附となりたる人員は終戦まで昭南島 に集結完了せる人員にして爾余の駆進、遅延兵力は依然歩兵第十一連 隊に籍を有す	
至自 八 七	爾後臨時復成第一大隊と呼稱す	
八 一 五	昭南島防衛 一、昭南島ヲシユロンレ地区の防徑に任ず 二、昭和二十年八月一日における部隊集結人員状況は別紙第三の如し	
八 一 五	終戦	
八 一 五	終戦に伴ひ当日附をもちて未集結後方滞留者は夫々最寄部隊に駆属せ しめらる、駆属者別表第四並に属表人名表の如し	

年月日	概要
昭 三 八	<p>一、シンカポールに對警備並に連合軍に對する警備を送り</p> <p>一、終戦後港警備地区の警備にあり九月五日連合軍上陸と共に警備申送りを終了す</p> <p>二、八月十四日昭南に到着せる歩兵第十一連隊本郡山本大尉以下十七名は終戦後六月二十九日附を以て遡及発令ありて大隊に編入せらる</p>
三 九	<p>兵力集結</p> <p>連合軍に警備申送後「ジヨホール」州「ジヌマラン」地区に兵力を集結す</p>
三 十	<p>「リオリ」諸島に向ふ移駐準備並に移駐</p> <p>一、「ジヌマラン」地区に於て移駐準備を行ふ主力は蘭領「リオリ」諸島「レンパン」島望港に上陸</p>
一 一 三 一	<p>同島千武に移駐を終了す</p> <p>一部「シンカポール」島及馬來地区に於て勤勞作業に任ず</p> <p>十一月二十一日現在に於ける作業隊派遣状況別紙第五の如し</p>

0386

年月日	概	要
昭 三十一	<p>一、レンバン島に於ける復員準備 移籍完了後復員準備をなすと共に建設諸作業に従事す 復員開始</p>	
三 四	<p>四月下旬より逐次復員を命ぜらる 内地帰還人員状況調査並に人名表別紙第六並に同属表第一、第二、第 三の如し</p>	
二 五 六	<p>主り復員時に於ける將校取員表別紙第七の如し 独立混成歩兵第一大隊編成以後の死没者別紙第八の如し 編成以乘の生死不明者なし</p>	
五 一九	<p>復員へ内地帰還の為りオレ諸島レンバン島千島港出発 名古屋港上陸</p>	
五 二十	<p>豫備役編入除隊、召集解除 復員完結</p>	
	<p>歴代部隊長名</p>	
	<p>一、陸軍少佐 伊丹 忠雄</p>	

臨時混成第二大隊 略歴

臨時混成第二十 大隊長 井口 梅年

年月日	概	要
昭和 三 一 二 五	混成歩兵第二大隊假編完成	一、第七方面軍の指揮下に入るべく混成歩兵第二大隊の編成を命ぜら れ昭和二十年一月二十五日假編を完成す 二、編成完成時に於ける部隊人員現況表並に將校取員表附表第一、第 二の如し
全自 五 一	一、編成完成と共一月末より教務団に分北海軍盤根、或は機帆船に 依りトシヤワレに向ひ戦進	一、編成完成と共一月末より教務団に分北海軍盤根、或は機帆船に 依りトシヤワレに向ひ戦進
三 一 八	稱頌中尉の指揮する第八中隊を基幹とせる約百五十名は機帆船により トセレバズレ島ヲマカヲケルレに向ひ戦進	稱頌中尉の指揮する第八中隊を基幹とせる約百五十名は機帆船により トセレバズレ島ヲマカヲケルレに向ひ戦進
三 二 七	大隊長佐伯少佐の指揮する約二百名はトスラバマレ東方海面に於て敵 潜水艦の攻撃を受く	大隊長佐伯少佐の指揮する約二百名はトスラバマレ東方海面に於て敵 潜水艦の攻撃を受く

年月日	概要
昭三三三七	陸軍大尉井口梅幸臨時混成第二大隊長を命ず
五未	部隊主力は「マラン」に集結完了す、 同地に於て次期作戦準備に任ず
五二五	大隊長井口大尉以下十五名昭南防行司令那付に補せらる 「シヤワ」に向ふ取進間に於ける損耗人員表附表第三の如し
六	昭南島に向ふ取進
六五	昭南島に取進のため「マラン」出航
六八	軍艦足柄に乗艦昭南に向ふ取進中「バンカ」海峡北口附近に於いて敵 潜水艦の攻撃を被る
六九	昭南上陸
六十	昭南防行隊の指揮下に入る
六下旬	部隊主力は昭南島「テンカ」地区に集結す
六二九	小林中尉以下八十六名昭南防行司令那付に取属
至自	昭南島に向ふ取進間に於ける損耗人員附表第四の如し
八六	昭南島防行

年月日	概要
至昭 三 八六	昭南島コテンカール地区の防衛に任ず 特接自動車第十五大隊独立砲兵第十三連隊編成要員の差出を命ぜらる 八月一日に於ける部隊集結人員状況並に將校員表附表第五、第六の如 し 終戦 終戦に伴ひ当日附を以つて未集結後方滯留者は夫最寄部隊に輾属せし めらる 八月二十五日に於ける部隊人員現況表並に將校員表附表第七、第八 の如し コシンカポール島コバシルバンジマンレ及びコテンカール地区の警 備並に連合軍に対する警備甲送 終戦後コバレンバンジマンレ（港地区）地区に伊藤大尉の指揮する二 ケ中隊コテンカール地区に小谷中尉の指揮する一ケ中隊夫々警備に任 じる 連合軍の上陸と共に警備の申送りを完了す
九 五	

	昭 三 年 月 日
	復員 概 要
	歴代部隊長名 一、陸軍少佐 佐伯 正 二、陸軍大尉 井口 梅年

臨時混成第三大隊 略歴
 オセ方面軍兼下（昭南防衛司令部）

臨時混成第三大隊長 三浦 昌次

年月日	概要	要
昭和 一 二 五	混成歩兵第三大隊編成完結	
七 一 五	一、コタニンバル諸島に於て編成改正を令せらる編成を完結す 二、編成完結時に於ける編成人員陸軍大尉八木窪己（六月一日附少佐 に連級）以下一ニ八八名（南方軍復員規定様式へ）	
四 下 旬	コジヤワレ島に向ふ移動準備並に移動 編成完結と共にコジヤワレ島に向ふ移動準備を行ひ逐次救捕団となり コタニンバル諸島を出発	
七 一	混成歩兵第三大隊先発隊はコスラバヤレに到着（主力は八月下旬コス ラバヤレに集結を完了す）	
六 二 九	昭南防衛司令部に転進し混成歩兵第三大隊先発隊を臨時混成第三大隊 に改稱す	

0393

至自		年月日	概要
昭	三		
至自	九八	八二五	<p>終戦処理のため「シコロ」地区に於て建築作業並に現地自衛に従事</p> <p>「ミンカポール」島中地の警備並に連合軍に対する警備申送りのため</p> <p>朝枝大尉以下二二八名中地区附近に位置す</p> <p>連合軍上陸と共に前項警備申送りのため朝枝大尉以下三十一名「ミンカポール」に残留、主力は「シコロ」に集結せり</p> <p>残留者の人名別録第二（兵力配置一覧表）の如し</p>
九	九	九	<p>大隊長陸軍大尉朝枝照英「ミンカポール」に残留のため陸軍大尉三浦昌次大隊長を代取す、</p>
九	九	九	<p>「シヨホル」州「コツキヤ」に移動</p>
九	九	九	<p>「シヨホル」州「シユアラン」に移動</p>
至自	九	九	<p>「シユアラン」に於て現地自衛並に連合軍に対する勤務作業に従事</p>

年月日	概要
昭 三十一 三 八	小泉少尉以下三十二名、昭防命第五十一号中地区命第二十号に基き「カラム」為に派遣す
一 二 三 十	派遣者の人名別紙第二の如し 中尾隊長「マライ」鉄橋技術中隊に派遣す
一 二 三 四	堀田曹長以下十名「マライ」鉄橋技術中隊に派遣す
二 三 五	原田中隊長以下二名「マライ」鉄橋技術中隊に派遣す
	派遣者の人名別紙第二の如し
	「レンバン」島移駐後に於ける部隊進交者並に島外派遣者の内訳別紙第三(部隊進交者人名表)の如し
	昭和二十一年一月二十五日以降昭和二十一年三月九日迄に於ける損耗人員の内訳別紙第四(自昭、二十一年、二五、至、昭、二一、三、五)向に於ける転入転出者人名表)の如し
	昭和二十一年二月二五日調製の將校取員表別紙第五の如し
	本部各中隊別編成表別紙第六の如し
	南方軍復員定に基き「アイウエオ」別運名彙別紙第一 並に「連隊区」別運名彙別紙第八の如し

年月日	概要
昭 三 五 一 二	<p>昭和二十一年三月五日調製の臨時混成第三大隊総人員一覽表別紙第九の如し</p> <p>昭和二十年六月二十九日より二十一年三月五日間に於ける損耗（戦入・戦出）人員一覽表別紙第九の如し</p> <p>復員</p> <p>隊長三浦大尉以下三二七名コレンバンレ島空港出発（別紙第一二）名百屋港上陸</p> <p>復員完了</p> <p>部隊ニ先行し假復員せしと思考せらるもの別紙第二の如し</p> <p>復員（内地帰還）のためコレンバンレ島 港出発</p> <p>港上陸</p> <p>復員完結</p> <p>歴代部隊長名</p> <p>一、混成歩兵第三大隊長 陸軍少佐 八木 隆巳</p> <p>二、臨時混成第三大隊長 陸軍大尉 朝枝 照英</p> <p>三、同 三浦 昌次</p>